

午後4時

ヨハネ1章35-42節

(そのとき、) ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。そして、歩いておられるイエスを見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言った。二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従った。イエスは振り返り、彼らに従って来るのを見て、「何を求めているのか」と言われた。彼らが、「ラビ——『先生』という意味——どこに泊まっておられるのですか」と言うと、イエスは、「来なさい。そうすれば分かる」と言われた。そこで、彼らはずいて行って、どこにイエスが泊まっておられるかを見た。そしてその日は、イエスのもとに泊まった。午後四時ごろのことである。ヨハネの言葉を聞いて、イエスに従った二人のうち一人は、シモン・ペトロの兄弟アンデレであった。彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、「わたしたちはメシア——『油を注がれた者』という意味——に出会った」と言った。そして、シモンをイエスのところに連れて行った。イエスは彼を見つめて、「あなたはヨハネの子シモンであるが、ケファ——『岩』という意味——と呼ぶことにする」と言われた。

説教

ヨハネが歩いているイエスを見つめて「見よ、神の子羊だ」と言うと、いっしょにいた二人の弟子はイエスに従います。それは**午後4時ごろ**のことだったとヨハネ福音書は証言しています。

ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。

(中略) 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。**そろそろ夕方**になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。ルカ24:13-15、28-29

ルカ福音書（マルコ福音書 16 : 12-13 にも並行箇所あり）からの引用ですが、きょうの福音によく似ています。

ヨハネ福音書では、洗礼者ヨハネが「神の子羊」とイエスのことを呼んだので二人の弟子（この時点ではヨハネの弟子）はイエスに従います。イエスは「何を求めているのか」と彼らに尋ねますが、弟子たちはそのイエスの問いには答えず「どこに泊まっておられるのですか」と質問し、イエスはついてくればわかるといい、彼らは従い「イエスのもとに泊ま」りました。

ルカ福音書ではイエスから二人の弟子に近づきますが、イエスには彼らといっしょに泊まる気はないようで先をいそぎます。そこを弟子たちが「そろそろ夕方」だからといってイエスを引き止めます。

イエスから近づくか、弟子から近づくか、いっしょに泊まろうと誘うのはイエスなのか、弟子なのか、ヨハネとルカではちょうど逆、対照となっています。また、ヨハネ福音書でのイエスはこれから地上での宣教を始めるところ、ルカ福音書では地上での働きを終えたイエス、という対照にもなっています。共通しているのはヨハネもルカも「午後 4 時ごろ」「そろそろ夕方」と同じころ起きた出来事ということです。

ヨハネが伝えている初めての二人の弟子がイエスに出会った午後 4 時
ルカが伝えるエマオへの道中で二人の弟子イエスと気づく夕暮れ時
イエスに出会い従う決心した午後 4 時、イエスを見失い悲嘆にくれる夕暮れ
に出会う復活の主、ヨハネ・ルカ福音書がそれぞれ伝えるイエスに出会い
従った「午後 4 時」という体験をわたしたち一人ひとりが大切に信じ続ける
ことができますように。そしてまだこの「午後 4 時」の体験に出会っていない
方が一人でも多くイエスを信じることができますように。
